

5月14日(土)

午後1時30分～3時45分まで 生物講義室で
早稲田クリニック 小西 洋之 院長 (S61卒) と駿台
予備校市谷校舎 竹内 昇 校舎長 からお話をいた
だいた。

小西医院長か
らは、戸山高校
水泳部時代のお
話、医師になる
きっかけや憧れ
の医師像を持つ
ことといったお
話。群馬大学医
学部時代に入部



したラグビー部、そして東日本医科学生体育大会で優勝
したときの経験から、『辛いときがんばる』強い精神力
や『人への思いやりや優しさ』が、医師の資質として
大切という貴重なお言葉をいただいた。また、志を同じ
くした仲間と一緒に学習に取り組む経験から、
TMの良さにもふれられた。

さらに、開業医の役割として、専門を生かしつつ内科
医として、迷える患者さんへ適切な助言をすること、さ
らに今後の高齢化社会に於いて、最後まで在宅で見とれ
る体制を作っていくことが開業医の役割とお話された。

引き続き、竹内校舎長からは、ご用意されたPP資料
(生徒提供)を補足する形式でお話があった。センター
試験の基本情報やセンター試験平均点の経年変化から、
次年度のセンター試験の難易予測のしかた(予備校の技)
などのお話があった。また、全国の大学の医学部医学科
が、センター試験と2次試験の配点割合の違いから4分
類できることと、その違いと自分の特性を勘案して、よ
り受験しやすい大学の絞り方や、大学の2次試験の難易
度から、志望順位をどのように考えるべきかといった情
報の読み方のお話がありました。



今後、特
に注意が必
要なのは、
現役時代に
履修した科
目によって
は、受験チ
ャンスが減
ったりする

ことがあることがあること。数学がボトムネックになる
ので、数学の学習は避けてはならないこと。さらに、セ
ンターで85%得点をとれば、医学科受験に何らかのチ
ャンスが生まれる理由を説明してくれました。

現役生は、センターは教科書レベルを超えないので、
高校の勉強をしっかりと行うことが大切というお話があ
った。そして、80%を得点するには、さらに85%以
上得点するにはという説明があり、教員もなるほどと思
えるお話がありました。

たとえば、センターで85%以上得点を取っていくた
めの努力として、①模擬試験で、正解したところをチェ
ックするのだそうです。この意図は、五者択一問題など
で正解した場合、本当にわかって正解した場合と、あや
ふやだが偶然正解した場合がある。後者の場合、そこを
きちっと詰めて(知識をより正確化する)おくことが大
切ということです。②試験で回答した問題に、自信があ
る回答からまったく自信のない回答まで、◎○△×とマ
ークしておくとのこと。もし、5分見直しの時間が残っ
たら、△の問題を点検せよということでした。限りある
時間を有効に利用して、すこしでも得点率を上げる手法
とのこと。確かに、数点の向上でも、多数の教科に
またがれば、大きい得点差になります。

最後に、●決してあきらめないこと。●バランスよく
学習し、苦手科目を作らないこと。●規則正しい生活を
送ること。特に早起きが大切(深夜まで学習するより)
で、いままでより30分でも早く起床して学習に集中し
た方が効率があがるとの助言をもらいました。
お二人からのお話は、それぞれに貴重なお話でした。
大切な情報として記憶しておいてください。

次回のTMミーティングは、6月8日(水)午後3時
15分からです。

講師は藤田 成晴氏です。

藤田さんは、本校を昭和63年に卒業されました。東
京大学薬学部を卒業し、慶応義塾大学医学部に再入学、
卒業し、東京大学大学院医学研究科を修了されています。
現在は、セレンクリニック東京ならびに東京大学医学研
究科附属病院先端診療部に勤務されています。
私たちの体に備わった免疫機能を活性化させて、がんを
治療するという最先端医療に取り組まれています。
高校1年生は、現在使用している生物基礎の教科の真ん
中あたりに、免疫のことが記載されています。事前に読
んでおくと藤田先生のお話がわかりやすいと思います。
高校2年、3年生は、最新の免疫治療を知ること、生
命科学的知見を深めることができます。医学系進路に役
立つ科学情報です。楽しみにしてください。

○高校3年生は、積極的に模擬試験を受けてください。
さまざま状況体験も大切ですし、自分の強み、弱みを掴
めます。また、第三者からの客観的な助言資料にもなり
ます。

(TM担当)